

ぎくかい



2025.7.17

小国町議会だより 第165号



私たちの健康は私達の手で



小国町食生活改善推進委員
連絡協議会の皆さん



スマホ

からもご覧
いただけます!



裏表紙に詳しくインタビュー掲載しています。御覧ください!

- 6月定例会全議案承認
- 新たな常任委員会の
構成決まる!

主な内容

■ 定例会・臨時会	2ページ～
■ 各課所管事務調査	4ページ～
■ 一般質問5名登壇	8ページ～
■ 委員会報告	14ページ

小国町議会

ホームページ <http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html>
e-mail gikai@town.oguni.yamagata.jp

小国町議会

検索

小国町立病院へ移管 10月1日本稼働

6月 定例会

定例会の あらまし

● 6月定例会は6月5日から12日までの会期で行われた。
● 令和7年度一般会計補正予算及び、特別会計補正予算9件、条例制定2件、財産の取得2件が一括上程された。

● 一般質問は5名が登壇し町政を質した。
● 最終日には追加議案として一般会計補正予算1件、条例改正1件、契約1件が追加された。全議案賛成多数とし定例会を閉じた。

医療介護確保のため「癒しの園」の変革が始まる

◆小国町国民健康保険施設に関する条例

(附帯事業)

第2条の2

病院の附帯事業として、介護保険法に基づく介護医療院及び通所リハビリテーションを設置する。

2

(1) 小国町立病院介護医療院

大字あけぼの二丁目1番地

(2) 小国町立病院通所リハビリテーション

大字あけぼの一丁目1番地

◆小国町立病院事業の設置に関する条例

(経営の基本)

第2条

3 病床数は、療養病床26床とする。

(附帯事業)

第2条の2

病院の附帯事業として、介護保険法に基づく介護医療院及び通所リハビリテーションを設置する。

2 前項に規定する事業に係る利用者の定員は、次の各号に定めるところによる。

(1) 介護医療院19人

(2) 通所リハビリテーション1日につき25人

解説



● 温身の郷の入所機能と、通所リハビリテーションの機能が小国町立病院の附帯事業となります。

● 療養病床における入院期間は、最長180日に延びます。

● 通所リハビリテーションはこれまでの施設を使用します。

「温身の郷」の機能を

一般会計補正予算の主な内容

総務費

災害補償費 …… 417万9千円

鳥獣被害対策実施隊の活動中の公務災害障害補償一時金及び医療費

施設維持管理委託・課題解決プロジェクト企画運営業務・自治体中間サーバ第3次移行関連事業等 …… 1,653万円

民生費

老人保健施設事業会計負担金 …… △1,345万円

「温身の郷」の機能移管による繰り出し金の不要分を減額

衛生費

病院事業会計負担金 …… 1億6,475万円

「温身の郷」の機能移管ほか

農林水産費

イワナ飼料価格高騰支援 …… 51万円

畜産業費

飼料価格高騰支援 …… 451万円

商工費

特産品等販路開拓業務 …… 300万円

第3セクター等機能調査業務等 …… 520万円

健康の森遊歩道整備等 …… 688万円

施設備品購入費（交流施設の椅子テーブル等） …… 310万円

教育費

給食費食材高騰分支援 …… 469万円

スポーツ公園高圧ケーブル等更新 …… 550万円

5/1 第5回臨時議会

- 125CC以下で最高出力4キロワット以下の2輪車の新たな税率区分の追加
- 固定資産税の手続きや加熱式たばこのたばこ税の換算方法の見直し、納税環境の整備などの改正
- 福祉施設等原油物価高騰対策緊急支援事業 947万円
- 障がい者福祉施設・児童福祉施設・医療施設・介護施設等12施設が対象
- 老人福祉センター高効率冷暖房機器整備支援 461万円

主な条例改正

主な補正予算

小国開発株式会社 代表取締役 柿崎 清隆

◆町道湯沢長者原線天狗橋橋梁補修工事 58,850,000円（税込み）

工事請負契約の締結

昭和建機株式会社 代表取締役 石川 清

◆ロータリー除雪車（2.2m級）1台 58,704,700円（税込み）

昭和建機株式会社 代表取締役 石川 清

◆ロータリー除雪車（1.5m級）1台 36,968,700円（税込み）

財産の取得

各課所管事務調査

5月14日、令和7年度の主要施策について、
各課より主要事業の概要説明を受け質疑を行った



総務企画課

- 自治体DXにおける基幹システムの標準化に向けた準備
- 移住定住促進に関すること
- 第6次総合計画基本構想・基本計画の策定

Q 当町はDXについてどう運用していくのか。

A 町民の生活の利便性向上や行政事務の効率化等を図るためDXを活用していきたい。昨年度から、鳥獣被害防止カメラの設置、地理情報システム運用を進めている。予算確保とのバランスが課題となっている。

Q 人口減少や高齢化に伴い、駐在員を引き受け

てくれる町民の減少が懸念されるが、対策はあるのか。

A 駐在員制度のあり方については引き続き検討する。なお、まちづくりパートナーシップ事業等の展開により地域人材の育成等にも繋げていきたい。

- 町営バス、デマンドタクシー等公共交通における運行の利便性向上
- 第26回全国女性消防操法大会出場に伴う訓練等の助成

町民課

Q 空白地運送支援事業については、より発展した展開が必要。どう事業を進めていくのか。

A 空白地運送支援事業を継続しつつ、今年度は北部地区のデマンド化に向け、地元と協議していく。



女性消防団の訓練成果を披露



税務課

- 国の基幹システム標準化への移行
- OSS（自動車の保有手続きをオンラインで一括申請できるワンストップサービス）に伴う税システムの改修
- eL-TAX（地方税のオンライン手続のためのシステム）における、個人住民税申告及び固定資産税手続きの機能を追加
- 令和9年度の固定資産税評価替えに向けた宅地等の鑑定評価を実施

健康福祉課

- Yuiの協力のもとフレイル予防教室を開催
- 健康まつり及び子育て支援アプリ運用事業を引き続き実施
- 今年度4月から始まった帯状疱疹ワクチンの定期接種に対する支援



- Q** 子育て支援アプリとはどのようなものか。
- A** 母子健康手帳に応じた機能、予防接種のスケジュール管理、子育てイベントのお知らせ、両親学級や乳幼児健康相談の予約等ができる。

町立病院

- 小規模介護医療院の本格運用の準備と運営に向けて、温身の郷をはじめとした関係機関との調整
- 温身の郷機能移管に伴うデイケアの実施
- 長期療養等の患者が増えることから、病床区分を療養病床に変更
- 広報紙の発行や座談会等を引き続き行い、町民に開かれた病院づくりの展開
- 経営改善の検証を6月に実施
- 病棟ナースコール設備、2階トイレの改修

訪問看護ステーション

- 令和6年度の利用実績など、現状をとらえ、効果的なサービスの運用を検討

介護老人保健施設

- 感染対策強化
- 温身の郷の入所機能を町立病院に移管

- Q** 温身の郷の機能移管後の施設の今後の利用方法についてどう考えるか。

- A** 介護医療院、通所リハビリテーションの二つの事業で活用できないか検討している。

教育振興課

● 小国高校の県外留学生
受け入れ

● 地域の体育協会、各競
技団体との連携

● 部活動の地域移行につ
いての調査・研究

Q 部活動の地域移行に
おける受益者負担の考え
方と開始時期は。

A 受益者負担については
昨年度同様の内容で実施

を予定している。開始時
期については7月からを
予定している。

Q 叶水小中学校の統廃
合は。

A 遅くとも令和11年度ま
では統合していきたい
と考えている。

Q 小国高校留学生につ
いてはどのような視点で
全国募集していくのか。

A Zoom相談会や都内
での対面フェスに参加予
定。これまでの成果を発
信し、募集活動を進めて
いく。



Yuiを中心に地域移行を展開する



地域整備課

● 新潟山形南部連絡道路
に国費で20億円を予算
措置

● 5路線の道路改良

● 令和8年度の水道料金
改定に向けた支援業務
委託

● 簡易水道事業では、新
たに五味沢に配水池流
量計と遠方監視設備を
整備

Q 国の国土強靱化制度
に対する対応は。

A 交付金のメニューにい
かに該当するかという視
点で事業構成を行っている。
下水道事業は、その
枠での実施となる。

Q 土木系の技術員の確



各所で進む新山道工事

保は必須ではないか。

A 土木系の学生が少ない。地元以外の町外者にも目を向けていく。

産業振興課

ションをしていくのか。

A 売価が安定していない。先行予約の取り組みがでないか調整している。

Q デジタル観光コンテンツに關し、宣伝できる材料を用意しているのか。

Q キャッシュレス決済事業について、スマホを持っていない方に対して

の平等性は。

A 前回同様にOカードポイントを5倍にするなどで還元できるように検討していく。

農林振興課

● 特用林産物（わらび粉）生産事業に対し、ベルトコンベアー導入を支援

Q わらび粉生産設備支援に關し、取扱量とブランド部署との連携は。

A わらび粉の原材料の生産量を現状2トンから10トンに増やすことを目標とする。町外への出荷増を見込んでいる。結果としてブランド化につながるものと考えている。

Q ふるさと納税の、米に対してどのようなアク

- 観光地域マーケティングおよびデジタル人材育成事業、デジタル観光コンテンツ整備事業、デジタルからリアルにつながるフードツーリズム事業を実施
- キャッシュレス決済での地域経済活性化支援事業を実施
- 中心市街地活性化計画については、フォロワーアップ調査として交通量調査等を実施



米の確保が重要

- 小国町農産物加工施設のボイラーを更新
- 配合飼料価格の高騰を受け事業者に対し子実用トウモロコシ作付支援
- 松岡合口頭首工の水位記録計と調整ゲートの補修
- 有害鳥獣捕獲用わなについて、無償借り上げを有償化
- 10,000haの森林境界保全図を作成



定例会一般質問とは？



議員が地方公共団体の事務について、執行機関に対し、事実または所信を質すこと。

一般質問は議題と関係なく行財政全般にわたる議員主導による政策論争であり、質問する議員も、受ける執行機関もともに十分な準備が必要である。議員には他の発言と違って、執行機関に対する事前の通告制が採用される。

どなたでも傍聴できます。是非お越しください！

町政を質す 一般質問5名登壇

渡 邊 重 信 議員

9ページ

- 1 温身の郷の施設の今後について
- 2 友好都市の確立について

小 林 嘉 議員

10ページ

- 1 第6次小国町総合計画の策定に向けた「まちづくり」の考え方について

柴 田 伸 也 議員

11ページ

- 1 明沢川に架かる高坂橋の崩落について

石 山 久美子 議員

12ページ

- 1 空き家等の現状、対策について

間 宮 尚 江 議員

13ページ

- 1 「第6次小国町総合計画」今後10年間のまちづくりについて

本会議及び一般質問の内容は、インターネットで録画をご覧ください。

http://www.oguni-town.stream.jfit.co.jp/?tpl=gikai_days_list&gikai_id=125





1 温身の郷の今後の施設利用は 2 友好都市の必要性はないのか



わた なべ しげ のぶ
渡 邊 重 信 議員

1 温身の郷の今後は

渡邊 人口減少に伴う利用状況の低下から「町立病院」と「温身の郷」両施設を統合し小規模介護医療院の運用が始まった。利用されなくなった施設管理は固定費の増加にも繋がり、行政サービスや予算確保にも影響する。今後の「温身の郷」の利活用は。

機能を残しつつ効率化を図る

町長 今後は町立病院の附帯施設としてリハビリ事業もこれまで同様一日当たり25人、特殊浴室及び、一般浴室、機能訓練室は引き続き小規模介護医療院のサービス提供空間として利用する。居室は会議室、備蓄食品庫を検討している。包括ケア施設の一元管理の為、高齢者福祉を推進する一定の費用はご理解いただき

たい。

渡邊 機能移管は町民の希望に答えられる政策なのか。

町長 町民に不安を与えないように、介護医療院と小国病院の両輪で役割を果たしていく。また、看護師、介護士の採用が困難なため、課題解決の手段として選択した。

町民の不安を払拭できる発信を



高齢者の安心に繋がる小規模介護医療院

2 友好都市の必要性があるのではないか

渡邊 堅実な町政運営は大切だが、失敗を恐れず、町長の思い描く町像を発信することで、期待と協力を得られる。

町長 国・県にも相談しながら進めてきた。計画段階で話す事は適切でなかった。きちんと説明できる状況になり、10月からスタート出来る。

渡邊 観光産業の創出と拡大、ふるさと納税の拡

大、ふるさと納税の拡



利用者から親しまれたお風呂、今後も利活用される

充、町民の稼ぐ力の醸成、新たな仕事づくり、更には移住・定住の取り組み。教育にも多文化を知ることにも繋がる。職員の仕事の有効的、かつ効率化を図る為にも積極的な友好都市を創ることが必要では。

手法を整理する

町長 双方の目的を共有し、協定を含めた具体的な連携手法を整理する。町民の方々の努力で知名度も上がってきている。丁寧に積み上げていく。

1 10年後の小国町の 将来を見据え 6次総合計画策定を



こばやし よしみ
小林 嘉 議員



10年後の小国町は

小林 10年後の小国町の将来像を、どのように捉え計画に盛り込むのか。

多岐にわたる課題解決の方策を盛り込む

町長 「経済振興で雇用の確保」「基幹産業の農業振興」「包括ケアシステムによる医療・介護の充実」「少子化による児童・生徒の減少を見込んだ学校経営と教育の充実」「人口減少・高齢化により衰退する集落機能の維持」「人口減少に伴う行財政改革」等々、10年後の地域社会を見通し、多岐にわたる重要課題を、詳細に振り返り計画に盛り込む。

国の方針も踏まえ議論を進める

町長 国は、今後10年間の地方創生の方針を示す「地方創生2・0基本構想骨子案」を公表している。

その中では、これまでにない発想や技術、多様な交流等により、新たな価値創造や自己実現を図っていくとする一方、人口が減少することを前提とした「人口希少社会」となることから、若い世代が社会の当事者として活躍できる人づくりが行われる社会を、10年後の目指す方向として整理されている。こうした視点も踏まえ議論を進める。

町民意見を反映すべき

小林 策定にあたってどのように町民の意見を反映していくのか。

町民参加は不可欠

町長 町民の参加は大変重要かつ不可欠なものである。

次代を担う中高生や地域サロンの参加者、町内企業の若手社員や子育て世代など、若い方々に積極的に関わってもらう考えで、幅広

い町民から意見をもらう機会を多様に設け、ボトムアップされた住民の思いを踏まえ計画策定を進める。

計画期間は10年間であるが、5年後に中間検証を実施し、その際も住民ニーズなどの把握に努めていきたい。



総合計画づくりは衆知を集めて



1 高坂橋の架け替えは行わないのか



柴田 伸也 議員

原状回復を願っている

柴田 明沢川に架かる高坂橋が今冬の大雪による被害で崩落した。川向には、地域の方々
の私有地等があり、行き来出来なく苦境に立っている。新たに橋を架け替えないのか。

財源の確保は厳しい

町長 今回の橋の崩落により、地権者の皆さんには大変なご苦労があると推測される。

町土保全のためには、道路機能の確保は重要と考えるが、対岸には住居もなく、現行制度下の中で投資対効果を求めて財源を確保することは非常に難しい案件とらえている。地元箱の口集落との協議は継続しながら検討していく。

柴田 川向には民有林
わらび野、栗林等があ

る。先祖代々の土地や畑を守っていきたいと思う地域の方がいる限り、橋を架ける方向で進められないか。

町長 担当課と地元の方々と話し、意見を聞くことが必要である。橋を架けるにしても、どのような橋を架けるとかの話には至っていない。

柴田 今後同様な吊り橋を架けるとしたら費用はどれ位になるのか。

地域整備課長 令和5年に福島県にて同じ幅、長さが50mの橋本体だけで、1億300万円であつた。高坂橋の架け替えとなれば、資材等の運搬道を整備するだけでも概算で、約1億6千万円と多額の費用がかかる。



崩落した高坂橋

柴田 もっと安価に架け替える方法はないのか。

地域整備課長 これ以上安く架け替える方法はないと思う。

柴田 多額の費用が掛かるのは承知した。しかし、このままの状態が続けば気力も失われかねない。もっと地元の方々の話も大切にしたい。この先も十分に話し合いを重ねてより良い方向に進むことを願う。



1 空き家等の現状、対策について



いしやま くみこ
石山久美子 議員



倒壊した建物の状況は

石山 雪が消え倒壊した建物の現状が確認できるようになった。改めてその被害や近隣住民への影響を考えると、早急な対策が必要ではないか。

影響を及ぼす空き家が増加

町長 空き家状態にある家屋は114軒、そのうち104軒は一定の管理がされている。所有者が亡くなるなど、放置され家屋破損等、周囲への影響を及ぼす空き家が増加している。今冬は倒壊家屋等、車庫、小屋も含め7軒を確認した。

所有者との連絡は

石山 空き家であっても個人の所有物である。所有者は定期的に

周辺住民に被害を及ぼすことのないように、適切に管理する責任がある。どのような対応をしたのか。

関係者に適切な管理を促した

町長 所有者等には電話連絡や文書を送付するなど注意喚起を行った。

近隣に及ぼす被害は

石山 家屋の材木等が風雨により飛び出し、通行人に怪我をさせるのではないかと。梅雨や夏の暑さの時期を迎え、異臭の発生も懸念されるがどう対応するのか。

巡視をする

町長 家屋の解体、飛散防止のネットの敷設やガレキが飛散しない

ように「大型土のう」の設置等の応急対応を行い、引き続き巡視をする。

空き家対策の支援は

石山 老朽危険空き家に対し、飯豊町では100万円、白鷹町では60万円、川西町では40万円をそれぞれ上限として解体を支援する事業がある。本町における支援は。

喫緊の課題として取り組む

町長 「小国町特定空き家等対策協議会」を再構築し、国の空き家対策への支援制度の活用を視野に入れ、地域の実情に応じた対策を進めるための計画づくりに着手する。
豪雪地の小国町の喫緊の課題として取り組む。





1 「第6次小国町総合計画」 今後10年間の まちづくりについて



ま みや ひさ え
間宮尚江議員

総合計画は最上位計画

間宮 今後10年間の「第6次小国町総合計画」は、地域の実情を的確に分析し、住民の意思を十分に反映し、実現性のあるものにしていく必要がある。更に、地域の将来像を描いていく客観性と科学的根拠が必要であり、計画は住民生活に直結するものでもなければならぬ。常務のなかで、どの業務に活かされ、現場職員は策定にどう積極的に参加するのか。予算要求の際、総合計画はどの程度の強制力を持つ判断基準なのか。

職員が自主的に携わる

町長 役職に関わらず多くの職員から政策提案や事業提案を求め、等の手法を検討したい。

政策企画監 予算要求時には総合計画の施策に沿った政策を要求し

てもらい、その中で判断する。

実施計画は示されるのか

間宮 計画と予算を連動させ、予算に直結する実施計画によって計画の実現性をどう担保するのか。

町長 過疎地域持続的発展計画を、総合計画の実施計画と実質的に同様と位置づけし、予算と連動している。緊急の課題にも、基本構想の趣旨に照らし、柔軟に対応していく。

聖域なき見直しは

間宮 効果なしと判断された事業について、は、前例やしごらみにとらわれず統廃合を行うか。具体的プロセスは。

町長 状況が変わった場合は、状況を分析した一番良い方法が何かをその時点で立ち止まっ

て考えることが「一番の決断」である。起きる事実に対して、その都度最善の対応をする。とが、将来に向け重要。

評価サイクルは

間宮 「事業を実行した」という結果だけでなく、住民生活にどのような成果をもたらしたのかという客観的な視点が必要ではないか。

町長 KPIを設定し目標値に対する達成度を調査する。計画を前

期・後期に分け、それぞれ最終年に評価を行う。役場だけでなく、客観性を持った、評価の場が必要と認識している。

※「第6次小国町総合計画」…自治体の行政計画。基本構想・基本計画・実施計画の3層構成。令和8年度から17年度までの長期計画である。下位に位置する分野別の施策や住民サービスを行う際の根拠となる。条例により、議会の議決事件に位置づけされている。



長期ビジョン策定の意義と役割は

新 委員会構成決まる!

総務厚生常任委員会



- ◆委員長 渡邊 重信
- ◆副委員長 小林 嘉
- ◆委員 石山久美子・遠藤 和彦
高野 健人

議会運営常任委員会

所管 議会の運営に関する事項・議会の会議規則・委員会に関する条例等に関する事項・議長の諮問に関する事項 等



- ◆委員長 小関 和好
- ◆副委員長 間宮 尚江
- ◆委員 渡邊 重信・伊藤 弘行
遠藤 和彦

文教産建常任委員会



- ◆委員長 間宮 尚江
- ◆副委員長 柴田 伸也
- ◆委員 伊藤 弘行・小関 和好
安部 春美

広聴広報常任委員会



- ◆委員長 伊藤 弘行
- ◆副委員長 柴田 伸也
- ◆委員 石山久美子・間宮 尚江
小関 和好・遠藤 和彦



議会事務局

右から

- ◆書記補 渡部 瑞葵
- ◆事務局長 益田 則幸
- ◆局長補佐 井上 賢和

令和7年度 委員会活動

重要事項の
所管事務調査に
取り組みます。

総務厚生常任委員会

活動内容

- (1) 白い森の国を担う「人」づくり
 - 特定地域づくり事業協同組合支援事業(継)
 - 地域づくり支援員導入事業(継)
 - 移住定住促進事業(新)
 - 新総合センターの利活用に向けて少子化対策について
- (2) 白い森の魅力を磨く「環境」づくり
 - 高齢者暮らし応援事業(継)
 - 公共交通に関する取り組み(継)
 - 空き家対策事業(新)
- (3) 白い森を舞台とする活き活きとした「暮らし」づくり
 - 健康増進事業(継)
 - 地域支援職員派遣事業(変更)
 - 病院事業(併設型小規模介護医療院)について(継)
- (4) 持続可能な行財政運営
 - 自治体DX推進事業(継)

担当課 総務企画課・税務課・町民課・健康福祉課・町立病院・介護老人保健施設

文教産建常任委員会

活動内容

- (1) 白い森の国を担う「人」づくり
 - 小国高校魅力化支援事業(新)
 - 保小中高一貫教育支援事業(継)
 - 競技スポーツ振興事業
- 【中学校部活動地域移行】(継)
- 閉校校舎維持管理事業(新)
- (2) 白い森の魅力を磨く「環境」づくり
 - 有害鳥獣被害対策事業(継)
 - 除雪事業(継)
 - 水道事業(新)
 - 簡易水道事業(新)
- (3) 白い森を舞台とする活き活きとした「暮らし」づくり
 - 観光施設管理運営事業(継)
 - 白い森みらい創生事業(継)
 - 観光地域マーケティングおよびデジタル人材育成事業(新)
 - デジタル観光コンテンツ整備事業(新)
 - デジタルからリアルにつながるフードツーリズム事業(新)
 - いきいき街づくり公社支援事業(新)
 - 商業施設環境整備基礎調査事業(新)
- (4) 持続可能な行財政運営
 - ふるさと納税事業(継)

担当課 教育委員会・地域整備課・産業振興課・農林振興課

広聴広報常任委員会

活動内容

- (1) 議会議員と語る会の開催
8月から11月
☆3団体
- (2) 議会だよりの発行
7月／10月／2月／4月
- (3) 研修
7月14日
県町村議会議長会広報研修会
8月
内部研修(庁舎内)



がんばってます!!



プロフィール

氏名 小嶋 信子
出身地 秋田県秋田市
(旧河辺町)
住所 小国町大字杉沢
趣味 料理・編み物

Q 団体が設立したのはいつですか？

A 昭和56年に組織化されました。

Q 会員数は？

A 現在は9名で活動しています。

Q どのような活動をして

いますか？

A 年に数回の研修会を企画し、会員の資質向上に努めています。自主事業としては食改主催の料理教室を年に10回程開催したり、食育事業への協力として「こどもの日祭り」での親子で作れるおやつを試食と、レシピの提供をしています。

Q 活動されている中で嬉しいと思うときは？

A 参加者の笑顔や「大変勉強になりました！」と喜んでいただいたときに



▲健康管理センターでの料理教室

とても嬉しいです。

Q 今後の目標は？

A 自主事業である料理教室や地区との繋がりを大切に、健康寿命延伸等を伝達する活動をしていきたいと思っています。

Q 町議会に望むことはありますか？



いただきます～す!

A 議員の皆さんにもたまには料理教室等に参加していただいて、ご意見を伺いたいです。

Q 最後に団体のアピールをお願いします。

A 会員はわずか9名ですが、事務局や栄養士さんの協力もあり、毎回和気あいあいと楽しく活動しています。興味のある方は、健康福祉課にご連絡下さい。

ありがとうございました。
(文責 柴田)

お詫びと訂正

第164号(4月17日発行)15ページの日本重化学工業(株)経営管理本部山形事業所長の氏名に誤りがありました。
(誤) 服部 昌弘氏
(正) 服田 昌弘氏
お詫びして訂正いたします。

次は12月定例会です。傍聴においでください。

編集後記

深い霧に包まれる朝、しつとりと濡れたブナの葉が光を受けてきらめいています。飯豊と朝日の山々に見守られながら静かに夏を迎えようとしています。

雨を力に変え、豊かな緑を育む天然広葉樹林は、小国町の大部分を占めています。私たちも、この恵まれた大自然に改めて感謝したいですね。

今年も猛暑が予想されます。気候変動に注意し巡りくる山の景色を皆様と迎えられることを議員一同願っております。

柴田(記)

発行責任者

議長 長 安部 春美
広聴広報常任委員会

委員長 伊藤 弘行
副委員長 柴田 伸也
委員 石山久美子
間宮 尚江
小関 和好
遠藤 和彦